

地域金融機関の競争環境が事業所の開廃業に与える影響

立命館大学 播磨谷浩三

釧路公立大学 尾崎泰文

要 旨

地方創生に関して、地域金融機関が果たす役割に様々な期待が寄せられている。他方、地域金融機関はリレバンの機能強化を 2000 年代半ばから推進しており、既に地域との密着度は十分に高まっていることが推察される。しかし、地域経済の衰退に歯止めがかかっているとは言い難く、一部の大都市を除き、廃業数が開業数を超過する状況が長期的に続いているのが実情である。また、地域金融機関の中には、地方中核都市への新規出店の増加で店舗網が広域化している先も多く、地元での取引先との関係は希薄化している可能性が大きい。本論では、地域金融機関の競争度が開業率や廃業率にどのような影響を与えているのかについて、「経済センサス」の市区町村ベースのデータを用いて検証を行った。結果、競争度が低いほど、開業率は高く、廃業率は低い傾向にあることが確かめられた。同様の結果は、事業所数に代えて従業員数を用いた場合についても確かめられた。これらの本論で明らかにされた内容は、地方における地域金融機関の存在意義を示すと同時に、競争度の高まりは決してリレバンに寄与しないことを示唆する **Information** 仮説と整合的である。

キーワード：地域金融、競争度、開廃業、雇用